

概要

- 羅臼地域では、豊かな自然環境を背景に、漁港を拠点とした小型観光船によるイルカ、クジラ、バードウォッチング等の知床の自然を活用したネイチャークルーズが行われているほか、「浜のかあちゃん食堂」（漁港食堂）において地域の水産物を提供している。
- 羅臼漁港には大型クルーズ船が寄港しているが、沖合に停泊して渡し船での上陸が必要となるため、上陸を見合わせる乗船客もあり、地域の魅力を知ってもらう機会の喪失となっていた。
- クルーズ船の漁港への着岸を検討するとともに、既存の漁港食堂や小型観光船等と連携を図り、集客の拡大を図る。



海業の取組概要

漁港活用のイメージ

浜のかあちゃん食堂

クルーズ船
(防波堤への着岸を検討)

小型観光船エリア
(待合所の整備を検討)

渡し船による上陸（現況）



- クルーズ船の着岸を検討
 - ・施設の安定性や、必要な安全設備等を検討

- 小型観光船との連携
 - ・既存の観光船事業者と連携し、知床の自然を活かしたネイチャークルーズの実施、待合所の整備

- 漁港食堂の活用
 - ・地元の主婦により運営されている「浜のかあちゃん食堂」で地元産の水産物を提供

- 町内の観光産業との連携
 - ・キャンプ場宿泊者を対象とした「漁師トーク」を開催し、地域全体で漁港の理解増進に向けて取り組む

- ## 効果
- ・地域の多様な連携による、羅臼地域への集客の増加
 - ・クルーズ船上陸客の増加（現在一航海300人程度⇒450人を目標）
 - ・オプションツアーの充実による乗船客の満足度向上・関係者の所得の向上

協力体制

- ・羅臼町
- ・羅臼漁業協同組合
- ・羅臼町観光協会
- ・羅臼町商工会
- ・北海道開発局 ・北海道庁

スケジュール

- 令和6年4月～連絡会議の立ち上げ
- 令和6年5月～港内係船の検討
- 令和6年10月～オプションツアーの企画検討
- 令和7年8月～羅臼漁港へのクルーズ船係船の実現



小型観光船によるネイチャークルーズ



浜のかあちゃん食堂での提供メニュー例

概要

- 羅臼地域は海藻類の豊富な地域だが、近年は磯焼けの進行や繁茂の不振により藻場が減少している。
- 根室海峡ではロシアトロール漁船の操業が続いており、特に浅海域での藻場の損傷が沿岸資源に悪影響を及ぼしている。
- 藻場の回復拡大による沿岸域の魚介類生息環境の確保を目指す。本事業により造成した藻場には栄養塩を豊富に含む海洋深層水を散布して海藻類の繁茂や成長を促す。
- 海藻の繁茂状況を調査し、CO2吸収量を算定してクレジット化を含むブルーカーボンの可能性について検討を行う。



海業の取組概要

漁港活用のイメージ



- 藻場の造成
 - ・魚介類の産卵場、生育の場としての藻場の回復と拡大
- 海洋深層水の活用
 - ・栄養塩を豊富に含む海洋深層水の取水施設が羅臼漁港内に整備されており、造成した藻場に海洋深層水を散布して海藻類の繁茂を促す。
- ブルーカーボン効果の調査
 - ・海藻の繁茂状況を調査してCO2吸収量を算定し、クレジット化を含むブルーカーボンの可能性を検討する。
- 将来的な藻場の活用
 - ・ダイビングスポットやグラスボートでの観察等、体験型観光での活用を検討する。

効果

- ・藻場の回復拡大による魚介類生息環境の確保
- ・ブルーカーボン効果の調査とクレジット化及び規模拡大の可能性検討
- ・藻場造成、生態系保全に資する知床羅臼モデルの構築

協力体制

- ・羅臼町
- ・羅臼漁業協同組合
- ・北海道開発局
- ・北海道庁
- ・研究機関（大学等）

スケジュール

- 令和6年4月～連絡会議の立ち上げ
- 令和6年5月～規模、水深、構造、整備費等各種要素の検討
- 令和7年4月～水産基盤整備事業による事業化の検討



海洋深層水の活用（画像は取水施設）



造成による藻場の拡大